



下末吉だより

—下小70周年 未来に繋ごう 下小のバトン—

令和5年1月10日

1月号

横浜市立下末吉小学校

下小を見つめて見つけた下小のよさについて

校長 江口 和良

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

創立70周年を迎えた令和4年度は、下末吉小学校の令和6年度までの3年間の中期取組目標の実現に向けて設定した重点取組(これらを「中期学校経営方針」と言います)の実施1年目でもあります。学校では、創立70周年のスローガン「下小70周年 未来に繋ごう 下小のバトン！」に「見つめる(1年目)→繋げる(2年目)→広げる(3年目)」という各年度のテーマを加えて中期取組目標として設定しました。そして70周年という節目の今年度は、まさに下末吉小学校のよさを見つけた年になりました。

下末吉小学校は横浜市で3番目に小さい学校ですが、だからこそ子どもも教職員も名前と顔が分かるアットホームな雰囲気があります。全学年単級で毎年クラス替えがないので友人関係が固定化されることへの懸念もありますが、一方で子ども達は長い時間をかけてお互いの距離感やそれぞれの個性を理解し良好な関係づくりを学んでいるよさがあると感じています。また、子ども達はなかよしグループや運動会などで他の学年と関わったり、学校外へ出かけて学習したりなど、誰かと交流しながら学ぶことにとっても意欲的です。保護者や地域の皆様も大変協力的で、昨年7月の納涼盆踊り大会や運動会では、子ども達と一緒に多くの大人の方々が「下小音頭」を踊ってくださり、私は下末吉のまちの温かさをつくづく感じる事ができました。

学校運営においても小規模校のよさを感じることがあります。例えば、コロナ禍が続く中、下末吉小学校では今年度も全学年で水泳学習を実施することができました。集団が小さいので小回りが利き、何事にも取り組みやすいと思います。また、職員数が少ないことは一人ひとりが担当する業務量が必然的に多くなる大変さではありますが、一方で職員間の風通しがよく、情報を共有しやすい職場環境だと思います。私が校長室にいと、職員室から子ども達のほっこりするエピソードが聞こえてきます。「かわいいね」とか「がんばってるね」など、一人ひとりの子どもの成長を多くの職員が共有できることは本当にいいことだな、と思います。

さて、年が明けて今年度のまとめの時期となります。保護者や地域の皆様は下末吉小学校をどのようにご覧になっているのでしょうか。保護者の皆様には1月中旬に学校評価のアンケートをお願いする予定です。ぜひ、皆様を感じている下末吉小学校のよさを教えてください。また、「こうすればもっと良くなる」というアドバイスなどもお寄せいただけたらと思います。令和5年も下末吉小学校とそこで楽しく過ごす子ども達の健やかな成長を引き続き見守ってくださいますようお願いいたします。

【いじめへの対応について】

学校評価アンケートに本校のいじめへの対応についての項目もありますので、少しだけ説明させていただきます。現在の法律では、いじめを見落とすことがないように、いじめを広くとらえていて、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にするのではなく、なによりもいじめを受けたと感じる子どもの立場に立つことが必要です。そこで、学校では、誰かの行為によって子どもが心身の苦痛を感じていることについては、積極的に「いじめ」として認知するようにし、学校全体で支援できるようにしています。